林 是幹 先生略年譜

本籍 身延町三四九三番地

明治四十一年十一月一日長野県上田市に生

歴

大正十一年四月 十三年九月 立正中学第三学年に編入学 祖山学院中等部一年入学

昭和 職歴 八年三月 学校関係 立正大学本科宗教科卒業

昭和 十 年四月 任祖山学院助教授

十七年十月 祖山中学教諭 任身延山専門学校教授

仝 廿六年四月 廿三年四月 任身延山短期大学教授 任身延山高等学校教諭

四十七年三月 四十三年六月 右退任(久遠寺庶務部長就任の 任図書館長

ため

久遠寺関係

昭和廿六年四月 任身延山教学部録事 主として山史資料蒐集に従う

> 仝 昭和三十四年十二月 三十九年五月 依願免経理部長 任執事、 経理部長

昭和四十二年八月 仝 八月 七面山別当退任 任七面山別当

四十七年一月 任庶務部長

四十六年一月

祖山会、常置会委員就任

等退任 庶務部長就任に依り祖山会委員

和昭五十三年十二月

庶務部長退任

宗門関係

昭和十二年八月 信行道場開設に際し書記となりて 以来主事、 及正、 副訓育主任を数

昭和廿二年 昭和三十二年十一月 普通試験委員に任じて以来今日に至る 回勤務す

す

社会関係

昭和三十一年二月 昭和二十四年十一月 身延町教育委員に当選委員長を 勤む 保護司に任命今日に至る

九月

規則改正(町長任命制)

に依り

宗会議員に当選以来二期就任

退任す

昭和四十年十月 役 (細部省略) 身延ロータリークラブ初代会長

昭和十五年十月 陸軍中尉鉄道連隊中隊長に任ず " **廿年四月二十日** 任陸軍大尉

正七位・勲五等瑞宝章を受く 僧階及住職

昭和五十年十二月 昇叙権大僧正

昭和十八年二月 受 耏 端場坊住職

昭和三十九年六月

保護司として法務大臣表彰を受

延山回顧録

身延山堂宇記 本山事始四題 島智良師三十七回忌

身延山々林に就いて

昭和廿六年

みのぶ みのぶ

2

4号

昭和廿六年

仝 四十五年十月 く 一級法功賞を受く

仝

四十六年十月

仝 四十七年五月 内閣より藍綬褒章を受く 望月学術賞を受く

仝 五十五年二月 身延町長より町政功労者(保護 司活動)表彰を受く スヘローを受く 国際ロータリーよりポールハリ

仝

五十五年四月

勲五等双光旭日章を受く

身延町の今昔 本妙日臨上人

昭和八年 身延教報 7 10 5 11ุ 12 号 6

昭和十五年 昭和廿五年 6 7 右 みのぶ 8 9 みのぶ 5号 10 2 3 11 号

立正大学日蓮教学研究所長より 御廟備整の経過と御真骨還元について 御真骨還元記 昭和廿六年 みのぶ

昭和廿七年 昭和廿六年十月田島印刷所発行 みのぶ 10 号

身延山宝物館記事

開宗七百年記念出版御遺文に就いて 昭和廿七年五月

11 号

久遠寺時鐘について 日蓮宗信行の手引 昭和廿七年 北海道土地株式会社印刷所発行 みのぶ 12 号

3号 3号

(373)

1

身延山七十四世 日上鑑人の詩	身延教報回顧録 昭和卅四年 み西谷檀林畧史 昭和卅三年四月	案	₿ D	八十四世(一行院日日日)	日蓮、日朗、日像、日親、元政、日本百高僧伝中日蓮宗 大法輪		洞爺丸殉難者追悼会 昭和廿九年	身延山と藤村県令 昭和廿九年	同右	西谷檀林の鐘、身延檀林の標石	身延山と末寺 同 右	香爐の銘 同右	永見兄弟の話 昭和廿八年	. さんちん諦について 同右	養仙院追記 昭和廿八年
	四月の	・ 大宣堂	月	み	日 薩 伝		みのぶ	みのぶ					みのぶ		みのぶ
号 3	ぶ 大宣堂 1 号	1 号	大宜堂発行	日円上人余香のぶ 三月号			11 号	2 号	11 号		3 号	2 号	2 号	1 号	1 号
仏殿納牌堂建立記 昭和四十五年三月 第四十二号通師法縁について 同 右	昭和卅四年十二月(第卅参号)山規制定の経過より見たる久遠寺の推移	祖山学院回願録 昭和卅年十月 樓神 第卅号 『樓 神』	宮崎英修編 「近世法華仏教の展開」 平楽寺書店身延西谷檀林の形成と展開 昭和五十三年三月	華 [昭	「山梨百科事典」中 担当項目	昭和四十五年 日本仏教学会年報三十六号	身延山に於ける檀林教育について	昭和四十五年二月 身延町役場	身延町史 第十一篇宗教 担当項目	宗祖六百五十遠忌回願 昭和四十三年 みのぷ 1号	身延山の宝物寸描 昭和卅九年 みのぶ 8号	昭和卅六年 教育新潮社	「身延山久遠寺」の歴史部 岩間湛良編著	加藤清正公三五〇年祭 昭和卅四年 みのぶ 11号

昭和五十四年三月 第五十一号

昭和五十年十月 第四十八号

以 上